

焼畑の環境学

—いま焼畑とは

佐藤洋一郎監修／原田信男・鞍田 崇編

▶ A5判・600頁／定価 9,450円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1588-1 2011年10刊行予定

焼畑は本当に環境破壊の要因なのか——。歴史・地理・民俗・農学それぞれの観点から、アジア・アフリカ各地で伝統的に行われてきた焼畑の実態を報告。先人の経験知の宝庫ともいべき焼畑を検証することによって、農業へ新しい知見を提示し、農業と環境、ひいては人と自然の関係を問い直す。総合地球環境学研究所で行われたプロジェクトの研究成果。

内容目次

総説

佐藤洋一郎(総合地球環境学研究所副所長・教授)

I 焼畑の原像と衣食住

縄文残映——焼畑農耕——

小山修三(国立民族学博物館名誉教授・吹田市立博物館館長)

繊維植物栽培における火耕——福島県昭和村のからむし焼き——

平田尚子(からむし工芸博物館学芸補助員)

椎葉の焼畑と食文化

飯田辰彦(ノンフィクション作家)

茅葺き民家を支えるヨシ原の火入れ

大沼正寛(東北文化学園大学准教授)

II 焼畑像をめぐる

会津農書からみる火耕

佐々木長生(福島県立博物館専門員)

近世農政家の焼畑観——対馬の陶山鈍翁を中心に——

原田信男(国士館大学21世紀アジア学部教授)

近代林学と焼畑——焼畑像の否定的構築をめぐる——

米家泰作(京都大学准教授)

新しい農学授業と地域興しとの連携

山口 聡(玉川大学教授)

[コラム1](再録)山焼きの民俗思想——火を介した自然利用の方法の現代的可能性をめぐる——

六車由実

III 日本と周辺の焼畑

蝦夷地における近世アイヌの農耕

山田悟郎(北海道開拓記念館学芸員)

カブと焼畑——山形県を中心に——

江頭宏昌(山形大学准教授)

四国山地の限界集落における焼畑と文化環境

橋尾直和(高知県立大学教授)

沖縄における焼畑

宮平盛晃(沖縄国際大学非常勤講師)

台湾原住民における焼畑

山田仁史(東北大学准教授)

[コラム2](再録)昭和一八年の山口弥一郎の牛房野調査に関して

六車由実

IV アジアとアフリカの焼畑

南九州とラオス北部の竹の焼畑——森の再生と持続可能な農耕——

川野和昭(鹿児島県歴史資料センター黎明館学芸専門員)

ラオス北部地域にみる焼畑の終焉とイネ遺伝資源の消失

武藤千秋(京都大学農学研究科技術補佐員)・佐藤雅志(東北大学准教授)

アフリカから焼畑を再考する

佐藤廉也(九州大学大学院准教授)

登って枝を打つか、地上で切り倒すか——ザンビア北東部・ベンバの焼畑造成——

岡 恵介(東北文化学園大学教授)

田中壮太(高知大学准教授)

養分動態からみた焼畑の地域比較論

V 史料論

中日火耕・焼畑史料考

原田信男

白山麓一ハケ村とむし関係史料について

山本智代(錦城学園高等学校教諭)

VI 附録DVD

白山麓一ハケ村村絵図集

山本智代

焼畑関係文献目録

江頭宏昌・米家泰作・原田信男

あとがき

原田信男・鞍田崇(総合地球環境学研究所准教授)



ザンビア北東部・
ベンバの樹上伐採



宮崎県椎葉村の火入れ

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	焼畑の環境学	本体9,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1588-1	
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				
					書店番線印

地域開発と村落景観の歴史的展開

原田信男編 多摩川中流域を中心に
関東平野西部の多摩川中流域をフィールドに、開発と景観という観点から、地球環境の変遷を問い人間の営みの歴史をたどる。豊富な考古遺跡・遺物にくわえ、村絵図・地方文書などの文献史料を手がかりとし、旧石器時代から前近代にわたって通史的に論じる。編者を中心に、20年におよぶ年月をかけて行われた共同研究の成果。
▶A5判・486頁/定価9,450円 ISBN978-4-7842-1555-3

近世の環境と開発

根岸茂夫・大友一雄・佐藤孝之・末岡照啓編
江戸時代の現実に沿って、村落・河川・山野・鉱山を題材に、環境と開発の問題についてあらためて問い直す論文集。【内容】ある開発批判言説の同時代認識と世界観/関東近世村落における雑業の構造/中世～近世初期、低湿地における「村」の形成過程/天保期印旛沼掘削普請の潰れ地と起返し/近世、別子・立川銅山の開発と銅水問題 他
▶A5判・366頁/定価7,875円 ISBN978-4-7842-1544-7

※日本近世地誌編纂史研究

白井哲哉著 思文閣史学叢書
領土支配における文化行為の意義に着目。地誌編纂の一つの政治的文化的行為と位置づけ、その機能や実態について明かし、また日本の地方史・地域史研究に対する歴史的考察の観点から、様々な地誌の具体的な編纂活動をとりあげる。記述内容よりも、記述形式や編纂活動、編纂体制などの分析を通じ、編纂という文化的行為が地誌を解明。
▶A5判・386頁/定価9,660円 ISBN4-7842-1180-2

※歴史災害のはなし

中島暢太郎・三木晴男・奥田節夫著
地球物理学の立場から災害研究の第一線に立ってきた京大名誉教授3人が、「その時人々はどうしたか」という問題意識に立って、古文書をもとに江戸時代の気象災害・地震・崩壊災害を検証する。取り上げた災害は、中国地方の気象災害、近江地震および雲仙眉山の崩壊災害。巻末に著者による鼎談「災害史と災害の科学」を付す。
▶A5判・252頁/定価3,045円 ISBN4-7842-0731-7

※火山噴火と環境・文明

町田洋・森脇広編 文明と環境Ⅲ
【内容】火山の大噴火と気候・環境/歴史をかえた火山噴火/火山噴出時に放出されるガス量の測定/樹木年輪から読み取れる気候の変遷と噴火の歴史/雲仙噴火の教訓/桜島の火山活動とその影響/鬼界アカホヤ噴火が南九州の自然に与えた打撃/西暦79年のイタリア・ウエスウイウス火山の噴火が周辺社会へ与えた影響 他
▶A5判・240頁/定価2,346円 ISBN4-7842-0844-5

近世吉野林業史

谷彌兵衛著
史料に基づき実証的に明かした本書は、吉野林業を初めて通史的にとりあげた研究。【内容】近世吉野林業史研究の視点/借地林業概念とそのイデオロギーの役割/吉野地方における育成林業の開始/小農型林業の生成/小農型林業の発展/小農型林業の変質/土倉山林関係文書の実証的研究/小農型林業と材木商人/小農型林業と材木組合
▶A5判・538頁/定価9,765円 ISBN978-4-7842-1384-9

布がつくる社会関係

金谷美和著 インド絞り染め布とムスリム職人の民族誌
染色業者カトリックと彼らの生産する布について民族誌的記述を行い、布の生産・使用によって構築される社会関係について論じる。また被り布という同じ衣服体系を共有するムスリムとヒンドゥーの社会関係に着目し、共有する布文化の様相を明かす。布を視点として社会を分析するというモノ研究の新たな可能性を拓くことを目指した意欲作。
▶A5判・330頁/定価6,510円 ISBN978-4-7842-1341-2

日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編
近代化の歩みを支えた産業技術の流れを把握できる「読む事典」。23の大項目に344の小項目を取り上げる。【大項目】道具/機械/素材/人工の素材/産銅業/石炭産業/動力と動力システム/鉄道と船/飛行機と自動車/情報・通信/生産技術/農業・林業・漁業/食品加工業/繊維と衣服/耐久消費財/建築とデザイン/環境技術/技術者教育 他
▶B5判・550頁/定価12,600円 ISBN978-4-7842-1345-0

※中世村落の景観と生活 関東平野東部を中心として

原田信男著 思文閣史学叢書
はじめに地域ありき——関東平野東部を中心に現地調査にもとづき、地形や伝承、中世・近世文書や地誌類などの豊富な資料、さらに地理学・考古学などの隣接諸科学も援用して、いくつかの典型的な中世村落の事例復元を試みる。生活の諸相をふくめて総合的かつ具体的に考察し、近世への展開をも見通した大著。
▶A5判・640頁/定価11,340円 ISBN4-7842-1022-9

環琵琶湖地域論

西川幸治・村井康彦編
滋賀県立大学の研究スタッフが、琵琶湖をとりまく自然・経済・民俗・遺跡などをとりあげた成果。【内容】中世商業村落の生活と環境の整備/人と自然の関係系素描/江戸時代における琵琶湖の鳥獣について/琵琶湖湖底遺跡の研究/内湖のあった生活/溜池のある風景/近江のムラの文化を考える/マツリゴトの機能とその現在 他
▶A5判・340頁/定価7,350円 ISBN4-7842-1175-6

鎮守の森の物語 もうひとつの都市の緑

上田篤著
「鎮守の森はひとびとの生活や生産、信仰や芸能を含む文化複合体である」という観点から、北は津軽から南は沖縄まで、鎮守の森を実際に歩いた探訪記録。地球環境と自然保護という21世紀を生きる人類への課題ととりくみを、都市にもある緑のオアシス「鎮守の森」の重要性とその現状を通して提言する。
▶A5判・300頁/定価1,785円 ISBN4-7842-1155-1

※京都大地震

三木晴男著
文政13年7月2日、京都を中心として震度6.4と思われる直下型地震が起った。建造物の倒壊、火災、流言と、公家・武士・町人を襲ったパニック。150年前の地震が現代に語りかける教訓を、現代における地震対策を念頭に京都大学地震予知観測地域センター長を勤めた地震学界の重鎮が語る震災ドキュメント。
▶A5判・334頁/定価2,940円 ISBN4-7842-0300-1

中近世農業史の再解釈 『清良記』の研究

伏見元嘉著
戦国末期伊予の軍記『清良記』全30巻を分析。その著者および成立年代を確定し、日本最古の農書とされる第7巻「親民鑑月集」の位置づけを明かす。近世農業の始まりとしての農書という定説をくつがえし、中世農業の最終段階をはじめて詳説したと位置づけ直す。
【内容】「軍記」の解釈/農書の解釈/「農業史」再見
▶A5判・424頁/定価8,190円 ISBN978-4-7842-1562-1

※近世後期瀬戸内塩業史の研究

山下恭著
塩、醤油業における開発・経営・塩専売制・流通問題を分析し、さらに塩業における燃料問題と労働条件を数量的に解明した基礎的研究。
【内容】近世後期の塩業と醤油業（近世後期龍野醤油醸造業者の塩田経営/龍野藩網干新在家浜と醤油造元 他）近世後期の塩業の燃料問題と塩業労働（近世後期赤穂塩業の燃料革命 他）
▶A5判・300頁/定価6,300円 ISBN4-7842-1287-6

近代地方政治と水利土木

服部敬著
淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対応、近代化の意味と中央集権的近代国家の性格を地域史の視座から問う。
【内容】近代国家の成立と水利慣行/水利組合の成立とその機能/淀川改修運動と地方政治の動向/日露戦後の農事改良政策と水利問題
▶A5判・400頁/定価6,930円 ISBN4-7842-0873-9

技術と文明 日本産業技術史学会会誌 [既刊31冊]

日本産業技術史学会編
日本産業技術史学会は、産業技術に関する歴史について調査・研究を促進し、その成果を社会に還元することを目的として設立。産業研究の各分野、経済学、人類学、日本史、工学等の広範囲の専門家による学際的交流の下で、産業技術史研究の基礎確立を目指す。
▶B5判・平均80頁/①～⑨・⑬～⑳ 定価(各)2,100円
⑩～⑳ 定価(各)2,039円

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。